

日本赤十字社の発展に尽力



足立寛

あ だち ひろし
足立 寛
(1842 ~ 1917)

足立寛は、天保13年(1842)5月6日、袋井市に生まれる。名は、藤三郎。字は、士得。父は神職足立文吉であるが、寛の少年時代に亡くなっている。蘭方医で最初の軍医監でもある。日本赤十字社の発展に尽力した。

幼年時代に掛川藩士戸塚敏庵に師事して和漢学を学び、安政2年(1855)に江戸で蘭学・西洋砲術を学ぶ。安政6年(1859)福沢諭吉の門下生となる。文久2年(1862)大坂で緒方洪庵の適塾に入り蘭学を学ぶ。文久3年(1863)江戸に戻り、医学所句読師。明治2年(1869)医学校兼病院中助教兼大寮長となる。

明治3年(1870)Dr.ミシェルに師事しドイツ医学を学ぶ。明治7年(1874)東京医学校を辞職す。陸軍に入り明治8年(1875)陸軍二等軍医正。明治24年(1891)6月陸軍軍医学校長となり、一等軍医正まで昇格する。明治28年(1895)陸軍軍医総監。陸軍省に出仕し軍医総監、陸軍軍医学校長。慶應義塾医学所の設立に携わる。多忙を極める中、衛生学教程本を多数記す。「敏氏薬論」「外科各論」「防腐的治療法」等がある。大正6年(1917)7月7日に75歳にて死去。谷中の天王寺墓地に埋葬。

【参考・引用文献】

梅溪 昇1996『緒方洪庵と適塾』

【協力】

陸上自衛隊衛生学校医学情報資料室

日本赤十字社(敬称略)



足立寛肖像(黒田清輝画)
資料提供:陸上自衛隊衛生学校